

立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）
大学院生研究
2008年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院 ビジネスデザイン			研究科	ビジネスデザイン	専攻
指導教員	所属・職名			氏名		
	経営学部教授			亀川 雅人 印		
自然・人文の別	○自然 ・ 人文			個人・共同の別	○個人 ・ 共同 名	
研究課題名	医療機関選択における意思決定のための情報因子					
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年			氏名		
	ビジネスデザイン研究科 ビジネスデザイン専攻 後期2年			八木 麻衣子 印		
研究組織	在籍研究科・専攻・学年			氏名		
研究期間	2008		年度			
研究経費	200		千円			

研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

医療サービス産業において、サービスの売り手である医療従事者や医療機関と、買い手である患者の間に存在する「情報の非対称性」は、医療経済を考える上で重要である。供給側は、価格、供給量などが様々な医療制度によってコントロールされているが、需要側は、「医療」という特殊性はあるものの、患者の選択行動には一般の市場原理とある程度近似していることが予測される。

しかし、需要側は、制限された医療知識と情報の中で意思決定を行っており、適切な医療サービスの供給には、需要サイドの客観的な情報分析の検討が必要であると考えられる。よって本報告では、受療行動の意思決定過程に影響を及ぼす情報因子について、前方視的に共分散構造分析を用いて検討することを目的とした。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[医療経済] [受療行動] [共分散構造分析]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)**目的：**

医療の需要者である一般の国民が、医療機関を選択する際に必要としている情報について明らかにする。

方法：予備項目の選定と予備尺度の作成：

2007年10月から11月に、都内私大ビジネススクールに在籍する101名(男性43名、女性58名)を対象に、自由記述調査を行った。その際、「過去に医療機関にかかれた、もしくはこれからかかるとした場合を想定してお答えください」という教示を与え、①開業医、②総合病院および③大学病院のような専門的で高度な病院の各々に関する選択基準、そして④病院にいかないこと、についての判断基準に関する質問を加えた。

自由記述の結果をKJ法により、①立地派、②建物派、③利便性派、④医師・医療機関に対してのイメージ派、⑤医療機関の規模・機能派、⑥接遇派、⑦ロコミ派、⑧医師・医療機関の業績派、⑨メディア派、⑩経験派、⑪その他、の11のカテゴリーに分類し、分類された記述に、筆者および経営学専攻の大学教員、院生5名によって内容的妥当性の検討を行い、43項目を予備尺度として選定した。回答形式は、5件法とした。

調査協力者および調査時期：

調査協力者は、東京都下の総合設備企業に勤務する一般社会人で、対象は有効回答が得られた130名(男性80名、女性50名、平均年齢45.3±14.8歳)とした。調査時期は、2008年1月であった。

実施方法：

協力企業にアンケート調査表を郵送し、1週間後に郵送にて回収した。

結果：

統計にはSPSS15.0およびAmos7.0を用いた。はじめに、予備尺度43項目について、自由記述調査によって得られた11のカテゴリーを想定した探索的因子分析(最尤推定法)を行い、固有値が1.0以上を示す7因子、19項目を抽出した。そこで、「業績重視派」、「利便性重視派」、「ロコミ重視派」、「接遇重視派」、「医療機関機能重視派」、「イメージ重視派」、「メディア重視派」の7つのカテゴリーを想定した確認的因子分析を行い、GFI=0.85、AGIF=0.78、AIC=336.9という結果を得た。

研究成果の概要 つづき

※ この(様式 2)に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A 4 縦型横書き 1 枚・自由様式)を添付すること。